

「令和7年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立富里南中学校】

令和7年4月に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の中学校の結果についてお知らせします。

1 生徒が受けた調査について

「国語」、「数学」、「理科」、「生徒に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

教科に関する調査

- (1) ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

※調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/25chousa/25chousa.htm>

2 本校生徒の調査結果

本校生徒の調査結果及び分析は以下のとおりです。

(1) 教科の正答率について 〔※ 全国公立中学校の平均正答率（以下全国平均）との比較〕

国 語	学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	C
数 学	学習指導要領における、「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	C
理 科	学習指導要領の目標及び内容に基づき、「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の各領域を横断した問題を出題	B

☆ 全国平均正答率との比較について

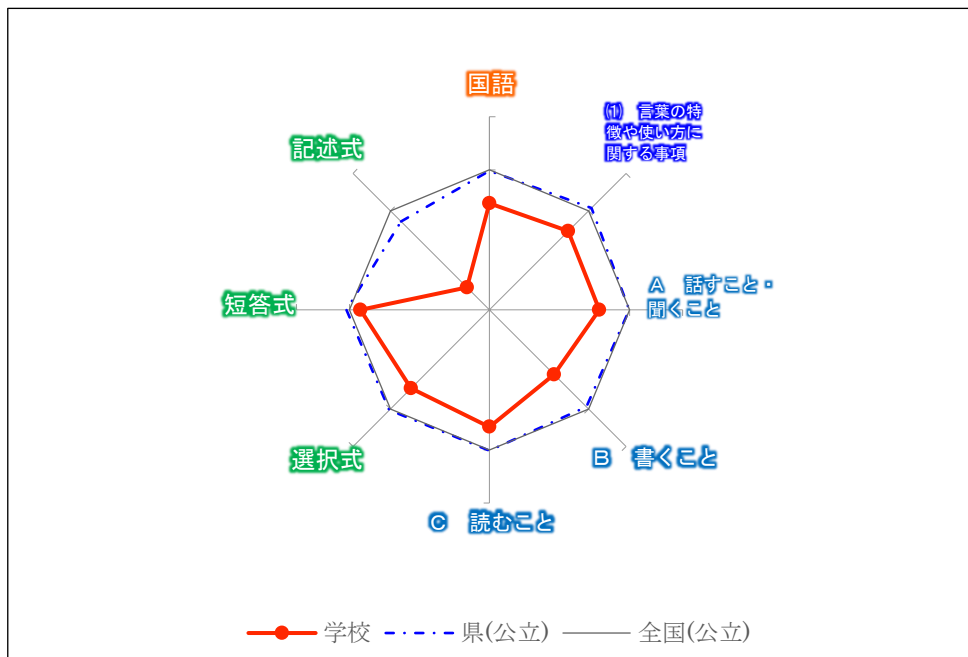
A：＋5.0％より上回っている場合「良好」

B：＋5.0％～－5.0の場合「ほぼ同じ」

C：－5.0％より下回っている場合「要改善」

(2) 教科ごとの分析

国 語



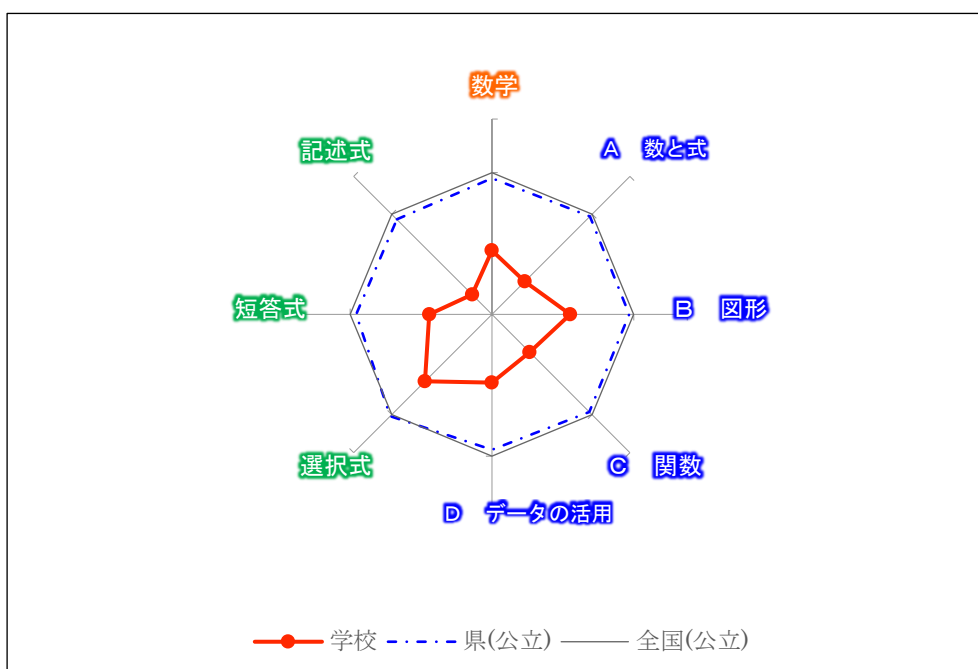
【特徴と現状】

- 『B 書くこと』において、県の平均を大きく下回る正答率でした。
- 説明的文章のように、長い文章や馴染みのない語句、概念が含まれた際には、その内容を読み解いていくことが困難だと思われます。
- 記述式の問題に対して、正答率がかなり低く、根拠を明確にして自分の考えを表現する力を育成する必要があります。

【改善方策等】

- 授業でのまとめを自分の言葉で書く機会を増やしたり、学習した内容を振り返らせたりすることで、自分の言葉で表現する機会を意図的に設け、「書くこと」と「記述する力」の改善を図ります。
- 授業や定期テストを通して初見の長文を読み、その中から必要な語句同士をつなぎ合わせ、自分の言葉として表現する機会を多く設けることで、記述式の問題を解く力の向上を図ります。
- 授業や朝自習の中で、速音読や視写を繰り返し行い、読解力と書く力の向上を図ります。

数 学



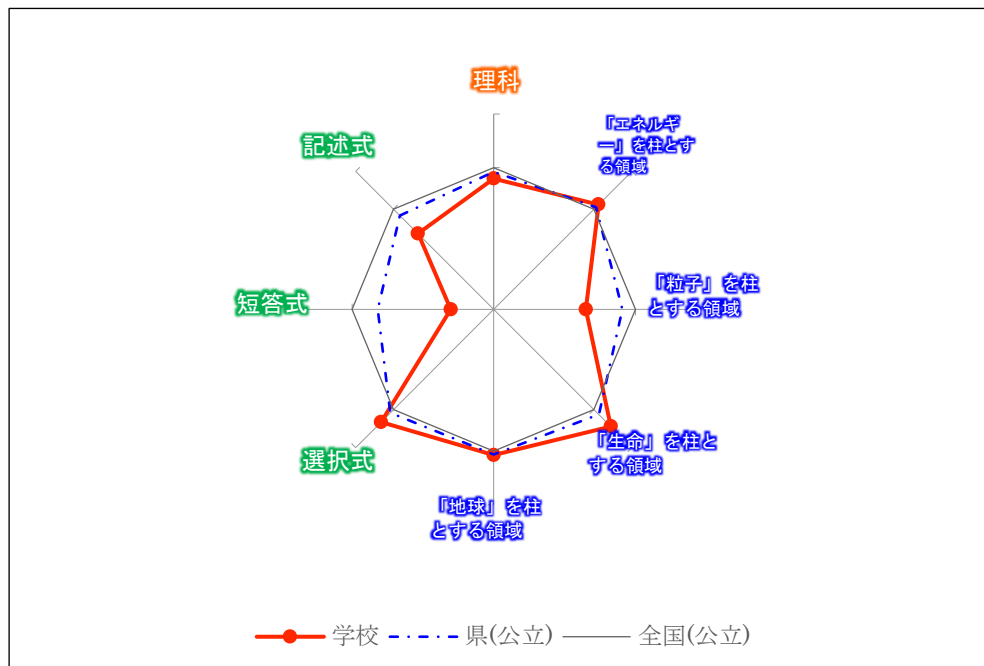
【特徴と現状】

- 本校の全体の正答率は、県の平均を大きく下回る正答率でした。
- 基本的な計算能力「数と式」を高めることで、他の領域も向上できると考えられます。
- 基礎・基本の練習問題に取り組み、解法を身につけさせ、「問題が解けた。」という自信をもつことで理解の向上が図れると考えられます。また、文章問題等応用の理解度も向上できると考えられます。

【改善方策等】

- 四則計算のルールを確認し、計算問題に繰り返し取り組ませ、基礎・基本の理解の向上につなげます。
- 「関数」において1対1や多対1の対応の関係を理解させるために、練習問題に多く取り組ませることで、「関数」についての理解を高めていきます。
- 授業の中では理解した内容を知識として定着させるために、次時に復習問題を行ったり、朝自習の時間に基礎・基本となる練習問題に取り組んだり、家庭学習の時間を増やしたりすることで定着が図れるようにしていきます。

理 科



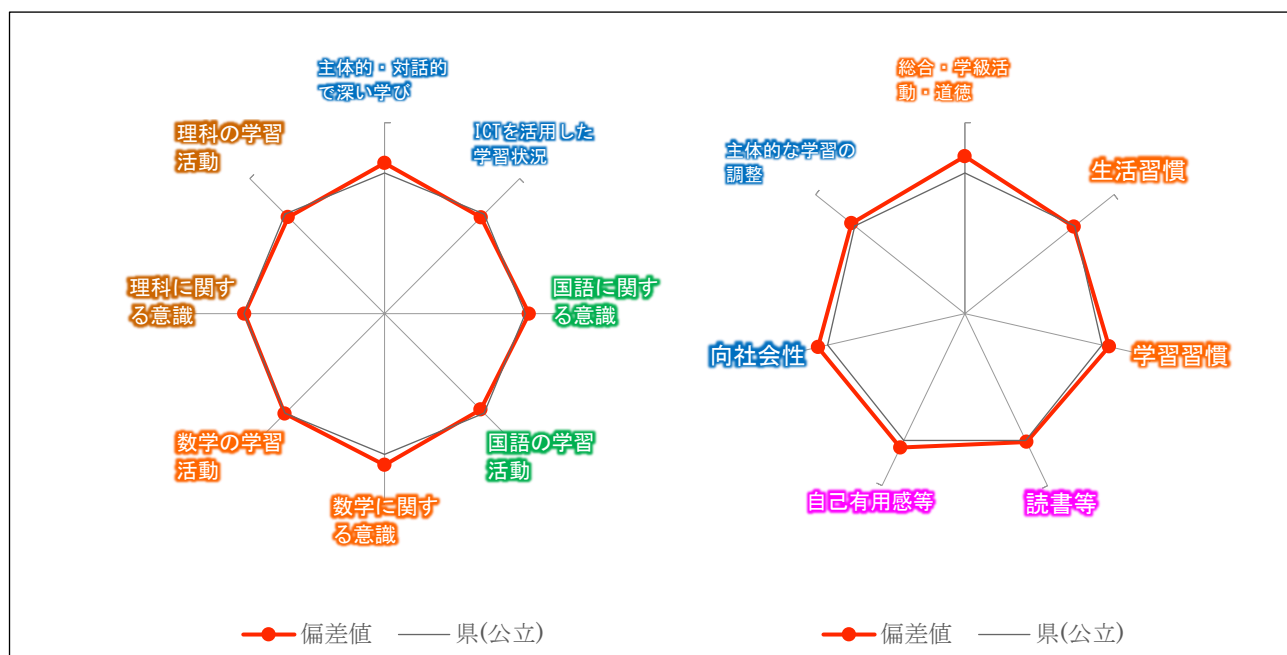
【特徴と現状】

- 県や全国平均を少し上回る「生命」を柱とする領域、「選択式」がありますが、全体として全国を下回る正答率でした。特に、「粒子」を柱とする領域、「短答式」がかなり低くなっています。
- 重要な語句の確認、現象の規則性の確認を繰り返し行うことで、短答式の問題の正答率が向上できると考えられます。
- 観察・実験からまとめまでの流れを再確認することで「粒子」分野の正答率が向上すると考えられます。

【改善方策等】

- 重要な語句の確認、現象の規則性の確認を毎時間行うことで、知識の定着を図り記述式や短答式の改善を図ります。
- 粒子領域の内容(1年生：状態変化)(2年生：化学変化)の課題に取り組ませたり、授業で復習する時間を設けたりしていくことで改善を図ります。

(3) 生徒に対する質問紙調査の結果及び分析



【特徴と現状】

- 「主体的・対話的で深い学び」、「数学に関する意識」、「総合・学級活動・道徳」、「向社会性」のポイントが高いです。
- 県と同じレベルの観点が多いです。
- 「主体的・対話的で深い学び」に向けた取り組みを、各教科、「道徳」、「学級活動」や「総合的な学習の時間」で取り組ませている結果が出ていると思われます。
- 「主体的・対話的で深い学び」、「数学に関する意識」、「総合・学級活動・道徳」、「向社会性」について、授業やそれ以外の場面で先生方が生徒の能力を向上させようとしていて、それを受けて生徒の意識が高まっています。
- プラスの意識が生徒の自己評価だけでなく、周囲から見ても同様の結果が得られるように、検証していく必要があります。
- 「主体的・対話的で深い学び」に対する意識をさらに向上させるために、より良い授業になるように授業のあり方についての研修を行っていきます。

3 まとめ

<推進体制の構築>

学習指導部会(月曜日4校時)で学力向上に向けての話し合いを行います。

小中で、学習規律の統一を図ります。

<教育課程の編成>

定期テスト後の振り返りを行い、次回に向けての課題を確認し、その課題を解消させるように取り組ませます。

朝読書や昼の図書室開放を行い、読書活動に取り組ませます。

<授業改善>

相互授業参観を行い、学習規律、発問の仕方、生徒の発言への反応、など、自分の授業へ取り込めるものを確認します。

I C T機器を積極的に取り入れます。

<家庭・地域との連携>

新入生保護者会、年度初めの保護者会で、家庭学習の実施を確認し、使用しているノートを家庭でも見てもらうように依頼します。

定期テストの学習計画表を家庭でも見てもらい、進捗状況を確認し、場合によってはアドバイスするように依頼します。